

観点別評価をどう行なうか - 左のポケットから右のポケットへ - 中山和彦	1
子どもに、先生に、ますます使い方が広がるスタディノートVer. 6! 余田義彦	2
研修会からはじまる「学びが深まる共同学習」 茨城県つくば市竹園東中学校 森田充	5
お米たんけんたいがいく! インターネット掲示板を活用した全国規模の共同学習 鳥取県岩美郡福部村立福部小学校 谷口義昌	7

観点別評価をどう行なうか

中山和彦

先日、全国から先生方が集まるスタディメディアコーディネータ研修会で、何人かの先生と話をした。ほとんどの先生が、「今、学校での論議は、絶対評価のことです。現在、評価基準作りで大変です。」と話された。私が、「国立教育政策研究所から『評価基準の作成、絶対評価の工夫改善の参考資料』が出されており、各教科毎に詳しく書かれている。それをホームページから印刷し、その内容に従って評価すればよいのでないか。」と言うと、「あそこに書かれている内容は漠然としており、観点別評価をした時になぜその評価点がついたかと抗議に来た父母に説明できません。具体的な評価基準を作っておかなければならないのです。」と答えられた。今年から絶対評価が採用され、各学校において評価基準を設定することが求められているのは知っていたが、それが先生方の負担となり、頭を悩ませているとは知らなかった。

今後は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4つの観点からと、児童生徒の個人として優れている点や、学習における進歩の状況を積極的に評価することになっている。観点の中では、「関心・意欲・態度」が最も具体化しにくい。例えば基準が作られたとしても、児童生徒各人の具体的な行動が明確になっていなければ評価が出来ないであろう。

どのようにしたら、具体的な行動を捉え、記録しておくことが出来るか、私の経験から説明してみよう。かつて私は2つの方法を実施し、学生にも教職になったらそのようにすることを薦め、実践した者も多かった。

1つは、「補助簿」(昔はエンマ帳と呼んでいた)を活用する方法である。補助簿の横行には児童生徒の名前が並んでいる。縦列に線を沢山引いて、各列に評価観点を記しておく。そして授業中に、ある子どもが優れた資質

左のポケットから右のポケットへ

を示した時に、その相当する枠に線を1本書き加えるのである。このようにして一定期間後に記録を眺め、記していない子どもを見つけて、その子どもがどうであるかをよく観察し、もし、これまでに気付かなかったよい資質をもっている場合には、その該当枠に線を記す。

2番目の方法は、少し厚めの、裏が白紙の広告などの紙を切って名刺の半分位の大きさのカードを沢山作っておく。その紙を左のポケットに入れておき、子どもについて気付いたことがあれば、名前と気付いたことを記入し、右のポケットに入れる。職員室の机の中には予め児童生徒の名前を書いた古封筒を用意しておき、右のポケットに入っているカードを子ども毎の封筒に分けていれていく。このようにして、一定期間後、封筒にカードの入っていない、あるいはほとんど入っていない子どもについて、その子どもに意識して、授業を進めるのである。

実際にやってみると、第2の方法は対象とする子どもの数が少ない時に有効で、小学校に薦められる。教科指導で複数の学級を担当している時には、全員の封筒を作るのが大変なので、第1の方法が便利である。何れにしても、気づいたときに直ちに記録しておくことが大切で、後になって記録しようと思っても忘れてしまうことが多い。

私は、「日本の先生は、子どもの悪いところを見つけてそれを直すことを仕事にしている。欧米の先生は、子どものよいところを見つけてそれを褒めることを仕事にしている。」とよく言っている。この場合も同じで、よいところを記録しておくのである。何も特徴のない、よいところがないと思っている子どもでも、先生が、よいところを見つけるという態度や目で見れば、思わぬよいところが見つかるものである。

(21世紀教育研究所所長 / 筑波大学名誉教授)

子どもに、先生に、ますます使い方が広がる

スタディノート Ver. 6 !

スタディノート Ver.6 ができました。データベースのマップ表示をはじめ、注目の新機能について、余田先生がメーリングリストに掲載されました。すでに Ver.6 を導入して、お使いになられている先生方の感想と合わせてご紹介します。



スタディノート Ver.6 で、新規に追加・改良された機能は、過去のバージョンアップになくたくさんのものがあります。いずれもシステムを実際にご活用いただききた先生方の要望を反映したり、私たち研究者サイドの研究成果を具現化したものばかりです。

1. 職員室メニュー・教室メニュー

【職員室メニュー】職員室にあるパソコンでこのプログラムを立ちあげておくだけで、個々の先生へのメールの着信状況、インターネットメール転送で送受信チェック処理が必要なメールの有無、サーバのディスクの残り容量チェック、スタディノートの起動処理などが一発でできます。このプログラムは、数年前に沖縄の先生方と話をしていた思い浮かんだものです。

【教室メニュー】ミレニアムプロジェクト(*1)で校内の教室に分散配置されるパソコンでの利用を想定したプログラムです。職員室メニューと似ていますが、クラスの名簿が画面に一覧表示され、メールの着信や個々の名前でのスタディノートの利用の開始が一発でできるものです。これらの機能は、スタディノートのホームページでテスト公開していたプログラムにさらにブラッシュアップをかけて完成させたものです。

*1 政府が新世紀を挟んで推進するプロジェクト。教育分野では教育の情報化の推進を掲げ、2005年度を目標に全ての公立小・中・高等学校が額学級においてコンピュータを活用できる環境の整備を行えるようにするなどが提唱される。

2. 先生メニュー

【フォルダ管理】サーバを直接操作しなくても、職員室やコンピュータ教室にある先生用コンピュータから、「みんなのフォルダ」や生徒個々の「自分のフォルダ」へデジカメなどからファイルを簡単にコピーして入れることができるようになりました。また、サムネイル(*2)の作成なども一発でできます。

《使ってみました》

デジカメで撮った画像などを、先生メニューで個人のフォルダに入れてあげることができるのがとても便利です。(つくば市 Y 先生)

*2 コンピュータで画像や文書ファイルのデータのイメージを小さく表示したもの

【利用状況】スタディノートの各機能の利用状況を俯瞰できる機能です。データを CSV ファイルで取り出してエクセルなどでさらに処理を加えることも可能です。管理的な目的だけでなく、個々の生徒の学習のサポートに積極的に役立てていくことを考えてみていただければ、と願っています。

《使ってみました》

どのクラスがどの週にどれくらい利用しているかも、細かく数字で出てくるのにも驚きました。使っていないクラスが一発で目に見えて分かってしまう。(つくば市 Y 先生)

【ホームページ変換】ホームページ変換後の画面を、スタディノートの掲示板や情報一覧画面に近いものに変えました。

3. ノート

【「絵をかこう」の画質が大幅に向上】これまでは GIF フォーマットを使って画像を保存していたため、256色に減色していましたが、PNG フォーマットに切り替えたため、デジカメの写真をそのままの美しさで残すことができるようになりました。

《使ってみました》

「絵を描こう」のスタンプで写真を貼った場合、以前は減色されていましたが、今回からは PNG にしたようで、印刷してもきれいなことに子どもも喜んでいました。

(札幌市 T 先生)

【「絵をかこう」の道具がさらに便利に】グラデーションや特殊な領域選択などが可能になりました。特殊な領域選択は秘密機能です。領域設定ボタンをダブルクリックしてみてください。これを選ぶと楕円形で領域を選択したり、わなげ(ラッソー)で領域を選択できます。デジカメで撮影した写真を楕円形で領域選択しておき、ctrl キーを押しながら、Delete キーを押す「選択領域外の削除」技を使うと、中央の楕円の部分だけを残して他の部分を削除するなんていうこともできます。また、グラフィックスを拡大縮小するのに、従来の ctrl キーを押しながら矢印を押す方法でなく、グラフィックスの枠をドラッグして拡大縮小する機能も加わりました。より直感的な操作が可能になったわけです。

《使ってみました》

グラデーション機能は、子どもに大人気でした。しかし、色ばっかり凝ることに熱中しすぎてしまうなどみられました。(子どもの気持ちは分かるが・・・)インク代がちょっとかさむかな(笑)(つくば市 Y 先生)

グラデーション機能にも、子どもは全く違和感なく自然に使っています。全く教えていないのに自分で発見して使っています。ただ、グラデーションの種類が少なく編集もできないようなので、どうしても暗くしがちで、プロジェクターで見た時に思ったより字が読

みにくいということもありました。このあたりは効果的に使えるように指導が必要かもしれません。(札幌市T先生)

貼り付けた画像がctrl + 矢印を使わなくてもサイズが変えられる。一太郎に貼り付けたのと同じような操作で容易にできる。(つくば市M先生)

【ビデオ映像をボタン表示から直接表示へ】マピカなどで撮影したビデオ映像をビデオボタンではなく、画面に直接埋め込んで表示できるようになりました。映像のサイズもマウスで変更することができます。複数のページにビデオ映像を貼り付けておき、ジャンプボタンやCtrlボタンを押しながら次ページボタンを押すことで設定できる時間指定自動ジャンプ機能と組み合わせてそれらのページを切り替えるようにすると、簡易ビデオ・オンデマンドのようなものを作ることができます。この機能を上手に使い、メディアリテラシーの授業もできるのではないかと密かに期待しています。

《使ってみました》

ビデオが再生、停止などが容易にできるために、子ども達が自分の活動の様子を評価するのに、大変有効です。特に体育的なもので成果をあげています。(つくば市Y先生)

【プレゼンテーション用拡大表示(フルスクリーン機能)】読もう(ノートビュー)のタイトルバーをダブルクリックするか、Ctrlキーを押しながらノートを一覧から選んで表示しますと画面いっぱいにノートを表示することができます。この画面の状態は、次に同様の操作を行うまでノートを閉じても保たれます。

《使ってみました》

ノートの画面をフルサイズで表示できるのはいいですね。昨日の研修のプレゼンはこの機能を使いましたが、なかなかきれいに表示できて、よかったです。(茅野市T先生：職員研修会で使用)

【その他】「みんなのフォルダ」などでサブフォルダの中のファイルを一度選びますと、次に開いたときにはそのサブフォルダが最初に開かれるようになっています。この機能は多くの先生方から要望があったものです。また、「その他」でドライブを選ぶ代わりにスキャナーやデジカメを選ぶこともできるようになりました。

Ctrlボタンを押しながら次ページボタンを押すことで設定できる時間指定自動ジャンプ機能では、次ページだけでなく任意のページへもジャンプできるようになりました。「他のノート・メールを加えよう」で表れる画面が改善され、わかりやすくなりました。また、印刷のメニューでは表示されているページだけの印刷がデフォルトとなりました。これらは、つくば市の毛利先生の意見を参考にしたものです。

4. 電子メール

【配達日指定によるメールの送信】何年後かの自分に

メールを送ったり、卒業生が入れ替えで入ってくる新入生にメールを送ることもできるようになります。この機能は、スタディノートを日本で最初に利用して下さった長野県豊能中学校(当時)の成田先生から8年ほど前にいただいたアイデアをようやく実装したものです。

5. 電子掲示板

【掲示一覧をスレッド表示】掲示とそれに対する返事の掲示を近接して表示できるように、スレッド表示に対応させました。この機能は、多くの先生方の声に対応したものです。

《使ってみました》

一番良かったのは、掲示板がスレッド式になったことです。これだと返事が返ってきたのかどうか、すぐにわかりやすく共同学習がスムーズに進みました。(つくば市Y先生)

掲示板の返事がツリー表示なので返事がわかりやすい。(札幌市T先生)

【掲示板の説明をチップス表示】掲示板の利用目的や注意などを生徒に知らせたいことがよくあります。そこで、掲示板のアイコンの上にマウスカーソルをしばらくおいておくと、その説明が表示されるようにしました。説明の入力は管理プログラムの掲示板の設定画面で行います。インターネット掲示板の場合は、この説明を他校の掲示板にも送り、同じものを表示することができるようになります。

【インターネット掲示板の管理機能を強化】先生の場合は、掲示を複数選んで一括削除できるようにしました。また、インターネット掲示板の場合は、先生が削除した掲示については他校の掲示板に掲示されている掲示も選んで削除できるようにしました。そのため、共同学習参加校間でインターネット掲示板の管理にかかる負荷を最小限に減らすことができます。この機能は、つくば市の今泉先生や吉田先生の意見を参考にさせていただいて取り入れたものです。

6. データベース

【情報マップ】この機能が今回のVer.6の目玉と言えるものです。データベースの情報表示の方法として、これまでの一覧画面に加え、マップ表示と呼ぶ方法を加えました。情報をマップ上に配置してわかりやすく整理したり関連づけたりするための機能です。概念マップ(コンセプトマップ)にも使えそうです。(図を参照)10数年前に行った概念マップの研究成果や、6年ほど前に八王子市立柏木小(当時)の五十嵐先生に見せていただいた授業をヒントにして何年かかかってやっと取り入れた機能です。この機能の活用例としてはちょっと思いつくだけでも次のようなものがあります。

地図上に情報を配置して整理 年表に情報を配置して整理 フローチャート上に情報を配置して整理 集合写



図 データベースのマップ表示例

真の上に情報を配置して整理（卒業作品集などにいいかも！）
 ペン図の上に情報を配置してグルーピング
 KJ法で情報をグルーピングして整理 情報どうしを線で結んで関係づけてネットワーク化 学習活動を思い出させる写真を背景として情報を配置（学習の文脈を想起させる）
 黒板の板書を撮影した写真をバックに板書事項に関わる情報（質問や考え、意見など）を配置
 《使ってみました》

マップ機能を使うことにより、地域学習などまとめやすくなりました。（つくば市Y先生）

総合的な学習の時間で、地域をいろいろ調べていて、それをどうまとめていこうかと思っていたところにこのマップ機能を知ったので、まさに「渡りに船」でした。こういった活動には、大きな模造紙のようなものにまとめるのが普通でしたが、デジタル化することで様々な利点がありました。たぶんこのマップ機能はこうした活動を念頭に置いて開発されたのではないかと思いました。ただ発表のためにマップ化しただけで、子情報を付ける活動までは行きませんでした。だからちょっとやってみたという程度しかやっていません。そのマップ機能ですが、私が校区の地図をかなり大きくしてしまったもので、動作が緩慢ですが、子どもには違和感なく、とても自然になじんで使っています。スクロールバーの使い

方が、本校の子どもは慣れていないので大きな地図をスクロールして見るのが難しいようですが、これは地図の工夫でどうにでもなるかなと思います。欲を言うと、データの位置表示の仕方にもう少し選択肢があってもいいかなということ。例えばアイコンだけの表示ができるとか、そのアイコン（ボタン？）をいくつか選択できるとか。データの種別にアイコンを選択できたりするといいかなと思います。（札幌市T先生）

7. 管理プログラム

【名簿管理】年度更新の際に、ひらがなの名前と漢字の名前の突き合わせ処理が自動で行えるようになりました。

【利用者】現在の利用者をチェックしたり、強制終了できるようにしました。

《使ってみました》

ユーティリティもとても使いやすくなっていますね。例えば、名簿の部分は「利用者」となっていますが、「現在の利用者」がわかり、トラブルがあったら強制的に削除できる機能は、不安定な本校のシステムではとても助かっています。（札幌市T先生）

児童がきちんと終わりにしないで、次に使うとき、自分の名前に入れなくなってしまうことがありましたが、それが簡単に解消できるのはすごいと思いました。（茨城県つくば市Y先生）

【掲示板のデータベース化】掲示板の内容をデータベース化できるようになりました。

【データベースの結合】複数のデータベースをまとめて一つのデータベースにすることができるようになりました。

【掲示板、データベースのテキスト抽出】掲示板やデータベースの一覧や内容をCSV形式でテキストファイル化することができるようになりました。研究をしたり報告書をまとめるときなどにご活用下さい。

8. サーバのプログラム

起動処理が驚くほど高速になりました。また、1～7の機能に対応するため、処理の強化が図られました。

《使ってみました》

全体的に、特にサーバー回りの動作が速くなり、本校の貧弱なシステムでも以前より快適に使えています。また十分安定もしているようです。（札幌市T先生）

9. 対応機種

今回から Win95 が外され、Win98、WinNT、Win2000、WinMe、WinXP 対応になりました。

10. その他

スタディノート Ver. 6 試用版、費用等の詳しいことについては、各営業担当者に問い合わせるか、スタディシリーズのホームページ (<http://www.study.gr.jp/>) をご覧下さい。

研修会からはじまる 「学びが深まる共同学習」

茨城県つくば市竹園東中学校
森田 充

つくば市の共同学習プロジェクト

遠隔校や複数校で共同学習をはじめるときのテーマの立ち上げ方に、何かテーマを決めておいて、「こういうテーマで活動しますから、皆さん参加して下さい」という形があります。しかし、私は、そういう形でテーマを決めてしまうより、自分の学校で進めている総合的な学習のテーマに添って、他の学校が参加していくような共同学習が立ち上がった方がいいのではないかと、というふうに考えていました。

そうした中で、つくば市では、学校の情報主任ではなく、教育課程編成や研究の中心となる教務主任または研究主任に参加してもらう共同学習の研修会をおこないました。そして、研修会に先だって「学校でおこなわれている総合的な学習の時間のテーマを把握してきてください」「その中で共同学習にしたいものを考えてきてください」というお願いをしました。研修会の中では、直接スタディノートを使って、データベースで自分の学校の考えている共同学習テーマをどんどん上げてもらい、それに質問したり、参加の意思を表示したりする時間を取りました。そうして立ちあがってきたテーマが「つくば市共同学習一覧」(別表1)です。

何のためにやるのか、

目的を考えながらやる共同学習を

この中に「バケツ稲」というテーマがあります。このテーマを立ち上げるとき、こんなことがありました。つくば市は合併により広域な面積を持ち、小・中学校あわせて48校にのぼりますが、片や研究学園都市の中心で周りが建物ばかりの学校、片や筑波山のふもとで周りが田んぼばかりの農村地帯の学校、と、環境もそれぞれ異なるわけです。ところが、農村地帯にある学校までが「うちもバケツ稲をやりたい」と言うのです。これは、どうなのでしょう。「もうちょっと頭をひねってください」と言ったところ、その先生は「バケツ稲ではなくて、稲づくりでしたね」ということに気づかれました。

テーマを単純に決めるのではなく、またただ単に共同でやればいいということでもなく、「何のために

やるのか、目的を考えながらやる」ということを常に考えながら進めていくことが大切であり、また実際にお互い顔を合わせて話し合うことによって、良い点悪い点が見つかったのではないかなと、そのとき実感しました。

茨城県全体での共同学習の立ち上げ

茨城県全体のスタディユーザーを中心に、コンピュータ活用教育を進めていこうという目的で、It's NET(茨城ティチャーズネットワーク)という組織が昨年より立ち上がりました。(ECONews No.71参照) It's NETでは、茨城県全体で共同学習ができれば、という願いで昨年研修会をおこないましたが、「メーリングリストで共同学習の呼びかけをどんどんしてください」と言っても、実際にはそういう呼びかけはありませんでした。

そういった昨年1年間の経過と、つくば市での研修会での実際のやりとりを見て、今年はIt's NET全体で集って、お互い顔を見合わせながら話し合う機会を設けることにしました。会場が公民館で、スタディノートがなくとも不便でしたが、模造紙を用意し、自分が考えている共同学習を書き出してもらいました。そこに、一緒にやりたいという学校の先生が自分の学校名を付け加えていくという方法で、実際にグループを作っていました。そのようにして、茨城の先生方のネットワークで「川の自然」「植物見つけた」「プールやご」「一冊の本」「職場体験」「福祉」「国際理解」「数学」の8つの共同学習が立ちあがることになりました。

メーリングリストでやりたいことを言ってくださいと言っても、なかなか手が挙がらないのは、こういうことをやりたいと言っているのだろうか、という不安や迷いが先生方の中にあるからなのでしょう。しかし、みんなで集まってディスカッションしていくうちに、やりたいと思うことに自信を持ち、掲示板を立ち上げてみたいと思えるようになるのではないかと思います。今年はIt's NETも活動できる年になるのかなという感じがしています。

共同学習をする目的が認識される研修会を

共同学習の研修会を開いてみて感じることは、共同学習をする目的や、なぜこのテーマで共同学習をしなければならないのか、という認識に、まだまだ差があるのではないかとということです。先生方の地域はいかがでしょうか。「それをやることで子供達の学びが深まるのだろうか」という根本的な認識がされているのでしょうか。そういう部分を理解してもらうことが研修の中では非常に大事なのではないかな

研修会からはじまる「学びが深まる共同学習」

とつくづく思います。

「総合的な学習の時間」というと、『調べてきたことを発表しましょう、質問しましょう、よかったと思います、ハイ拍手』というパターンが未だに多いと思うのです。共同学習のよさ、学習の深まり、先生

方になるほどと思ってもらふこと、そして体験しながら良さを感じてもらふ研修、そういうものをこれからも It's NET では念頭において、研修会を定例化していきたいと考えています。

別表1 平成13年度つくば市共同学習一覧

学習テーマ	掲示板名	学習テーマ	掲示板名	学習テーマ	掲示板名
環境調査の結果を知らせよう	「環境一般」	納豆・豆腐づくり	「いきもの」	数楽の広場(別表2)	「数楽の広場」
アサザ	「環境一般」	ハーブ	「いきもの」	花室川プロジェクト	「川の研究室」
霞ヶ浦	「環境一般」	学区の様子を知らせよう	「いきもの」	卒業研究	「5・6年広場」
星空観測による環境調査	「環境一般」	身近な自然観察 鳥	「いきもの」	鎌倉のおすすめの場所	
炭	「環境一般」	メダカ	「いきもの」	(修学旅行)	「5・6年広場」
酸性雨	「環境一般」	ケナフ	「いきもの」	説明文の読解	「5・6年広場」
エネルギー	「環境一般」	ミミズ	「いきもの」	美術・技術作品展示	「中学生広場」
ゴミとりサイクル	「環境一般」	薬草づくり	「いきもの」	スポーツ	「中学生広場」
気象観測	「環境一般」	つくば市ホテルマップ	「いきもの」	職場体験(別表2)	「中学生広場」
学校ビオトープ	「環境一般」	きのこ	「いきもの」	3年進路	「中学生広場」
E M菌, 活性汚泥等による		生活	「つくば広場」	英語	「国際理解」
水質浄化	「環境一般」	食	「つくば広場」	国際交流	「国際理解」
身近な秋を見つけよう	「いきもの」	健康	「つくば広場」	1冊の本	「本」
身近な自然観察 植物	「いきもの」	未来のつくば	「つくば広場」	つくばの歴史	
身近な自然観察 昆虫	「いきもの」	製作	「つくば広場」	歴史体験 平沢遺跡	「歴史マップ」
オオムラサキ	「いきもの」	通学路調べ	「つくば広場」	福祉	「福祉の広場」
野菜	「いきもの」	町探検	「つくば調査」	保健の広場	「保健の広場」
こんにゃく	「いきもの」	稲づくり(別表2)	「バケツ稲」		

昨年度は、つくば市全小中学校(小36中12)の共同学習として、全50個のテーマの学習がおこなわれました。

別表2 共同学習一覧の詳細の一例

テーマ 掲示板名 スタディノート設定アドレス	参加校 は中心校	コメント
バケツ稲観察・たんぼづくり バケツ稲 ine@takezono-e-e.ibk-tt-net.ed.jp	竹園東小 桜南小 真瀬小 並木小 田井小 北条小 大形小 谷田部小 大曾根小 島名小 田水山小 東小 手代木南小 要小 栄小 上郷小	5年生が水田を作っているの、情報交換できます。 5年生。2学期は稲刈りと調理。 5年生。 5年生。バケツ稲とたんぼ稲。両方やっています。秋には、お米のレシピに挑戦。 5年。バケツ稲の栽培を情報発信中。 家で稲作の手伝いをしている子が多いです。学校でもバケツ稲の栽培をしています。 5・6年。たんぼで米作り。9月上旬からカマで稲刈り予定。脱穀機で脱穀。 化学実験クラブでバケツ稲栽培中。何かお伝えできるかも。
数楽の広場 数楽の広場 suugaku@ takezono-east-j.ibk-tt-net.ed.jp	谷田部東中 吾妻中 並木中 田水山小 並木小 谷田部中 田井小 手代木中 吉沼小	全学年。数学オリンピック。算数・数学おもしろ問題。児童生徒による自作問題。 参加希望 中3。数学について興味を持ったことについてまとめる。10月ごろ。 参加希望。 参加希望。 選択数学で。 4,5,6年生。数が苦 数楽へ。 算数苦手から算数博士へ。 11月 小町算。 参加希望。
職場体験 中学生広場 bbs1@azuma-j.ibk-tt-net.ed.jp	高山中 大穂中 豊里中 吾妻中 筑波東中 竹園東中 並木中 筑波西中 桜中 谷田部中 谷田部東中	中2。 中2。11月の体験学習に向けて情報がほしい。 中2。9月下旬体験予定。10月頃発信可。 中2。 中2。 中2。 中1。夏休みに実施。2学期にまとめ。 中2総合。オリエン～発表までのトラブルやらハプニング含めて提供可。 中2。夏休みに実施。2学期にまとめ

稲づくりではそれぞれの環境や活動を活かして、数楽の広場では小中の学年枠を越えて、職場体験ではたくさんの情報交換・意見交換を求めて、共同学習がすすめられました。(コメントは、共同学習立ち上げ時のものです)



お米たんけんたい

が、いく！

インターネット掲示板を活用した全国規模の共同学習

鳥取県岩美郡福部村立福部小学校 谷口 義昌

鳥取市立米里小学校ののびっ子学習とお米探検隊名前からわかるように、私が昨年度まで勤務していた鳥取市立米里小学校は、鳥取市内で米の生産量が第1位の米里地区にある小学校です。そのため、1・2年生の生活科、3年生以上の総合的な学習の時間（通称のびっ子学習）において、お米作りが中心的な活動となっていました。担任した5年生は、学校でのお米作りが5年目となります。そこで、単純にお米作りの体験活動をするだけでなく、活動に変化を取り入れたいと考え、スタディノートのインターネット掲示板を活用した交流学习を行うことにしました。この件に関してスタディノートのメーリングリストに提案したところ、多くの学校に参加していただけることとなりました。最終的には、参加校は以下の11校になりました。

- 岩手県 / 一戸町立奥中山小学校
- 埼玉県 / 鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校
- 長野県 / 松本市立並柳小学校 茅野市立永明小学校
- 飯田市立山本小学校
- 三重県 / 美杉村立太郎生小学校 明和町立明星小学校
- 兵庫県 / 八千代町立八千代北小学校
- 鳥取県 / 鳥取市立米里小学校 国府町立谷小学校
- 岩美町立岩美西小学校

子どもたちは、全国の小学校とコンピュータを使って交流するということを知り、大変喜びました。子どもたち自身、米作りを家庭でもよくやっており、地域の特徴として捉えていました。それを他校に発信できる喜びを感じていました。

交流スタート、そして田植えへ

参加校も増え、各校最初のメインイベント田植えに向けて活動がスタートし、インターネット掲示板を活用した交流学习もスタートをきりました。インターネット掲示板は、子どもたちの交流用のものと教員同士の情報交換用のものと2つ準備しました。子どもたちの掲示板には、学校紹介などが当初みられました。（図1）教員用のものには、今後の予定などが掲示されていきました。

交流は、次のような観



図1

点でスタートしました。（ECONews 73+74より転載）

日本全国で作られているお米。日本の代表的な食物のひとつである。どこでも作られているお米ではあるが、気候や文化の違いなどが影響していないだろうか？ 普段の生活で身近すぎて考える機会の少なかったかもしれない米作りの工夫を、他地域の友だちと情報交換（交流学习）することで、児童が主体的に調査、探究活動に取り組む姿勢や力の育成を図りたい。お米作りの実体験とインターネットでの情報交換（バーチャル体験）との融合でこれからの情報化社会の方向性なども感じてほしい。

田植え前のしろかきのことなど徐々に掲示も増え、田植えの頃には各校多数の情報が掲示されました。（図2）

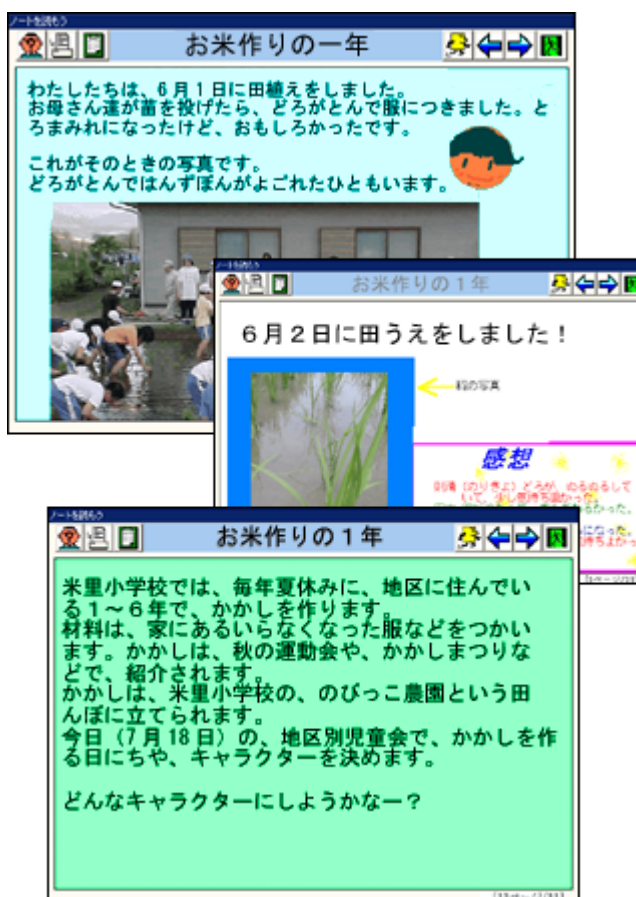


図2

交流の深化と課題

子どもたちは、田植えを終え、秋の収穫に向けて草抜き（草引き）やかかし作りのことなどについて掲示をしながら交流が続いていきました。（図2）しかし、同時にこのころになると交流の課題も見え始めました。

2学期はなにか、観点をしぼっての交流がしたいですね。クラスのみんが書き込む形とはべつの方法で、共通の課題について学校別に1本か2本のメールを書く。これなら、返信も書きやすいし、学校による違いや共通性が顕著になるのではないのでしょうか。

今のままでは、単にまとめとしてのスタディノートであり、それはそれでいいとしても、せっかくの10校あまりの交流です。その「全国的な交流ならでは」という形を作りたいと、私は思うのですが。(三重県太郎生小学校)

お米づくり活動の行事的な紹介だと、どこでも同じになると思います。最初は学校紹介的にそれでよかったと思います。でも、総合でやっているとするれば、個々の課題にせまった掲示がそろそろ始まるのではないのでしょうか。そうなれば、2校での交流よりは、みんなでの交流のほうが違いが出て面白いのではないのでしょうか。

それぞれ、別の掲示板だとわかりやすいのですが、そうもいかないで題名のつけ方を工夫するなどして、選択しやすいようにしませんか。せっかく全国版でやっているのですから、違いのわかる交流にしましょうよ。(岩手県奥中山小)

以上のように、子どもたちの交流と教員の交流と双方とも高まっていったように思います。最終的には、子ども用約560通、教員用約80通の掲示がありました。

成果と課題

この交流学習を終えて、成果と課題を振り返ってみると、成果としては大きくまとめると以下の3点があると思います。

今まで当たり前のように考えていたお米作りの中に地域特有のものがあることに子どもたちが気づいた。その地域性の中にも特性と普遍性があることに交流を通して、気づいていった子どもたちが多かった。「え、何それ。」「これはやったよね。」「これはしないのかな。」などの子どものつぶやきが多くみられた。

相手に伝えるという活動の中で、どうすれば相手にわかりやすく伝わるのか、多くの情報の中で必要なものは何だろうと考える子どもが育ってきた。

他校と情報交換を続けていく中で、あらためてお米作りの魅力を再認識した子どもが多かった。

明星の子たちは「お米の学習」という窓口を通して、全国の子どもたちと交流できたことをとても喜んでいますが、自分たちの学んだこと、活動したことを見てもらえる

ことをとても喜んでいました。そして知らず知らずのうちに、米作りの地域差について学んでいました。私は、こうした「人と人とのつながり」と「学び」がスタディノートというツールで実現できたことがとても実感できた一年だったと感じています。(三重県明星小)

課題については、次の点を感じています。

インターネット掲示板が、それぞれの学校の行事紹介的になってしまい、交流学习としてはよかったが、共同学習まではいけなかった。お米作りの交流ということで、当初地域性や普遍性に眼を向けようとスタートしたが、掲示板にははっきりとした形でそれが出てこなかった。子どもの中にはいろいろ感じた児童があったり、個々で交流する姿も見られたりしたが、全体的には弱かったように思う。

教員同士の交流が弱かった。教員用の掲示板もあったが、なかなか思うように意見交換ができなかった。掲示板のほうは、大まかな内容の伝達や掲示のことがメインであった。活動のことなどをもっと話し合い、積み上げていけられたらよかったと思う。

私は、指導者同士の交流が弱かったことを指摘したいと思います。こういった交流は、「言い出しっぺの谷口さんが提案」して、それを受けて参加校が動くというものではないと思うのです。交流方法についての試行錯誤が必要なはずで、そのアイデア交換をしないとダメです。ブレーンストーミングといわれるものです。それを、指導者同士のメーリングリストですべきでした。それができなかったことは、参加校の指導者の「怠慢」であろうと自戒の意味をこめて思っています。谷口さん、次回チャンスがあれば、ぜひ今回の反省を生かして盛り上げましょう。2校や3校での交流なら簡単なことが、10校を超えると難しくなることはあるでしょう。でも、参加校が多ければそれだけアイデアも豊富になるというメリットもあります。(三重県太郎生小、スタディMLより抜粋)

最終的に、昨年度のインターネット掲示板の内容はデータベース化して、各校で本年度の実践に生かしていくことを確認して活動を終わりました。昨年度の実践を生かし、本年度へといたったのですが、勤務校が変わってしまったのが残念です。

参加校の先生方にはこの場をお借りして、お礼を言いたいと思います。ありがとうございました。



5月18～19日、全国各地の先生方によるスタディメディアコーディネータ研修会が東京でおこなわれました。ご参加の先生方ごくろうさまでした。

今年の研修会では、Web上に展開するインタラクティブスタディの教材も紹介され、インタラクティブスタディ、スタディノートと、教室や学校の壁を乗り越える「未来の教室」の姿がいよいよハッキリしてきたようです。

Educational Research Institute for the 21st Century

21世紀教育研究所

address 〒305-0045 茨城県つくば市梅園2-33-6
TEL 0298-50-3321
FAX 0298-50-3330
e-mail econews@eri21.or.jp
URL http://www.eri21.or.jp